

◎**今週の御言葉** 「信じます。不信仰な私をお助けください」(サムエル記第一17章32～50節、マルコの福音書9章14～29節) 「おまえは、剣と、槍と、投げ槍を持って、私に向かって来るが、私は、おまえがなぶったイスラエルの戦陣の神、万軍の主の御名によって、おまえに立ち向かうのだ。きょう、主はおまえを私の手に渡される。」(17:45,46) 「するとイエスは言われた。『できるものなら、と言うのか。信じる者には、どんなことでもできるのです。』するとすぐに、その子の父は叫んで言った。『信じます。不信仰な私をお助けください。』」(9:23～24)

◎私たちは聖書を読み、説教を聞き、神様からの約束を戴いた時、「アーメン、信じます」と告白します。しかし、イザ現実に立ち返る時に「信じられない」と思うことがあります。その時、どうすれば良いのでしょうか？

◎サムエル記第一17章は「ゴリアテとの戦い」の記事です。当時、ダビデはサウルの王宮と家とを往復しつつ両者に仕えていた。ゴリアテ事件は彼が家にいた時に起こった(15,17)。巨漢ゴリアテがペリシテの陣営から名乗りを上げ、イスラエル軍に挑戦し、代表戦士を出せ、一対一で戦おうと申し出て来た。これを受けて立つ者がイスラエルの中には一人もおらず、意気消沈しているところに、父の使いでたまたま戦場を訪れたダビデが主による義憤に駆られ、この大男と闘い、ついにたった1個の石を用いて彼を倒す、という胸の躍る記録をここに見ることが出来る。

◎マルコの福音書9章14節以下には「いやされたてんかんの少年」について記されています。山を下ったイエス様は再び「不信仰な世」と向き合うことになる。ロがきけない霊につかれた少年が、癒しを求めてイエス様の許に連れて来られたのです。主と側近の弟子たちが不在の間、残された者たちで汚れた霊の追い出しを試みましたが、失敗したあげく、律法学者と、面目をつぶされた弟子たちとが論じあっていたのです。

◎弟子たちはイエス様に従い(3:14,15)、すでに汚れた霊を追い出す権威を授かり(6:7)、実践にも与っていたのです。しかし、彼らはかたくなな心を繰り返し非難され(4:40,6:50—52,8:17—21)、ここでもイエス様は、弟子たちを含めた「不信仰な世」(19)を非難されているのです。イエス様は「その子を私のところに連れてきなさい」(19)と命じて、すべての権威を持つご自身を現し、周りの人々の信仰を喚起されたのです。イエス様こそがすべての解決の源なのです。

◎その場で少年はひきつけを起こし、泡を吹きながら転げ回ったのです(20)。父親はイエス様にすがって「もしおできになるものなら、私たちをあわれんで、お助けください」(20)と叫んだのです。父親は自分の信仰から疑いを追い払うかのように「信じます。不信仰な私をお助けください」(24)と言って息子をイエス様の前に差し出したのです。その姿勢にイエス様は応えられ、癒しの手を伸べられたのです。

◎私たちも不信仰な告白をすることがありますが、しかしその「不信仰なわたしをお助けください」と叫ぶところに信仰が働くのです。「不信仰の信仰」にも神様は働いてくださるのです。神様は憐れみ深い御方なのです。その神様を信じ続けましょう。